

二 次の①～⑧の——線の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

- ① 不正行為を徹底的に調査する。 ② 秘蔵の品が手に入る。
- ③ 友人の言動に便乗する。 ④ 寛容な態度で見守る。
- ⑤ エースをオンゾンする。 ⑥ 多くの物を見てシキベツする力をつける。
- ⑦ カーブではジョコウ運転をしよう。 ⑧ 世相をハンエイする。

二 1～3のそれぞれの問いに答えなさい。

1 次の①～④のそれぞれの文について——線部の使われ方が正しいものを一つ選び、記号で答えなさい。

①

ア 耳を傾けて聞いていたせいで、聞きもらしてしまった。
イ 落としてしまった財布を、目を細くして探しまわった。
ウ 木で鼻をくくったような兄の発言に、勇気をもらった。
エ 久しぶりに会う旧友を、駅で首を長くして待っていた。

②

ア 凍てつくような寒さに、思わず肩で風を切って帰った。
イ 思いがけない吉報に、目も当てられないほど安心した。
ウ 絶体絶命の大ピンチを、かたずをのんで見守った。
エ 積み重ねてきた苦労が実を結び、音を立てて喜んだ。

③

ア 父の鶴の一声で、海外旅行に行くことが決定した。
イ 牛の歩みのような大胆な采配に、度胆を抜かれた。
ウ 梨のつぶてのような連続攻撃で、連戦連勝を重ねている。
エ 僕と兄は大猿の仲なので、しょっちゅう意見が合う。

④

ア 母が横車を押してくれたおかげで、難題が一気に解決した。
イ 先生の無茶な要求から、胸をそらして逃げたい気持ちだ。
ウ 血のにじむような努力の末、ようやく仕事が板についてきた。
エ 先生が鼻にかけたような声なので、聞き取りにくかった。

2 次の①～④の熟語の中で、対義語の関係になる組み合わせを一つ選び、記号で答えなさい。

- ① 【ア】 厳寒 イ 悪寒 ウ 猛火 エ 猛暑 オ 避暑
- ② 【ア】 永遠 イ 遠方 ウ 敬遠 エ 接近 オ 近隣
- ③ 【ア】 記述 イ 黙秘 ウ 黙礼 エ 提供 オ 供述
- ④ 【ア】 念頭 イ 末代 ウ 末尾 エ 頭首 オ 冒頭

3 次の①～④の感情を表す表現をそれぞれ後のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

① 喜 ② 怒 ③ 哀 ④ 驚

ア せつない イ 愛想がつきる ウ うしろぐらい エ こおどり
オ 二の足を踏む カ しやくにさわる キ 息をのむ ク 肩の荷が下りる

③ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(特に指示がない場合、句読点や記号は一字に数えます)

体育の最初の授業は、50mのタイム走だった。体育は男女別で二組合同でやるから、①三組の俺は四組の連と一緒に走った。二人一緒にタイムを取ることで背の順に整列すると、隣が連だった。なんかドキッとした。175センチで身長は一緒だ。ベスト体重は俺が63キロ、連が52キロ。受験の一年で俺は2キロ増えちまったけど、連は変わらないみたいだ。ハンバーガーとかそんなもんばっか食ってるのに太らねえんだよね。

連と走るの、小学校五年のリレーのアンカーの時以来だ。トラックの四分の一周ほどリードしてトップでバトンを受けた俺を連はゴール前で抜きやがったんだ。

50mで、どのくらい差がつくんだろう？ 全国で7位とかのスピードって、どんなもんならう？

② わくわくした。

③ 思いきり走れよ

俺は連に話しかけた。

「なんでよ？」

連はだるそうに聞き返した。

「知りたいんだよ。おまえ、どのくらい速いのか」

「なんでよ？」

「なんでだろう？ いきなり答えに困った。」

「おまえは知りたくないのか？ 速い奴がいたらさ。そいつがどのくらい速いかって」

俺は懸命に考えてしゃべった。

「身体で感じてみたくないか？」

連は俺の目を見た。

「そうだな」

連はゆっくりと言った。

「おまえ、速いんだっけね」

- 2 -

「や、俺は……」

むくむくとふくらみかけた劣等感を必死で押しつぶした。引いたらイカン。連からのこのパスをスルーすることは断じてナラン。決定的な場面だ——もしかして。

「速いよ。わりと」

力をこめて言うと、連は吹き出した。なんで、笑うんだよ。人が必死で真面目に決定的に……。

「スタート勝負だよ、50mは」

連は何気ない調子で言った。さらりと口にした「勝負」という言葉が耳に強く残った。

「勝負しよう」

俺は言った。負けるのわかりきってるけど。

連はまた(④)。奴は何も言わなかったけど、⑤笑ったり茶化したりはしなかった。

土のグラウンドにチョークで白いラインを引いてトラックが描かれている。スタートの合図は生徒がやり、体育の吉野先生が両手に二つのストップウォッチを持ってゴール地点でタイムを計る。スターターは「用意」で片手を伸ばして上げ、「スタート」で大きく振り下ろす。地面に手をつくクラウンチング・スタートじゃなくて、立ったままのスタンディング・スタートだった。

背の低い順から二人ずつ、どんどん走っていく。7秒台のタイムが多く、たまに6秒の後半が出る。と、ハンドボール部の顧問でもある吉野先生は、「よー、何部だ？」と声をかけて勧誘しようと狙っている。今のところ、6秒5の根岸のタイムが一番いい。さすがだ。中学時代の俺の50mのタイムは6秒2だった。全力で走るのなんて久しぶりだよ。犬の散歩でのジョギングはかかさずにやってたけどさ。「勝負」なんて言わなきゃよかったかな。

連は体育座りの膝にあごをのせて、楽しそうに見ている。ガキの頃はクモとあだ名がついたほどに細長い手足には力なんてあまりなさそうだけど、あれでしなやかな筋肉なんだろうな。身体って不思議だ。身体に備わっている力とか才能とかって、ほんとに不思議だ。俺なんて中肉中背の健ちゃんよりタツパあるし、体力テストの数値だって全部上なんだ。神様のゴツイ嫌味さ。

順番がきた。スターティング・ラインに並んだ。⑥視線の端に映った連の構えがカッコイイと思った。

「用意——スタート」

スターターの振り下ろした手を見て飛び出した。

自分がどんなふう走ったかなんて覚えてない。

連の背中しか覚えてない。

置いていかれたという強烈な感覚と。

連の速さを感じるなんてできなかった。そこまで、ついていけなかった。スタートした時はあいつはもうはるか先にいて、それからどんどん行ってしまった、あいつの背中が。

悔しい——とすら思えない。

勝負？ とんでもない。

なんかアタマがぶつとんでる。

- 3 -

俺、連のこと、何にも知らなかったんだな。よく知ってるつもりだったのに。あいつ、こんななんだ……。

「よし、神谷」

根岸がやってきて俺の肩をつかんだ。

「⑦失敬な野郎だ。俺より速いじゃねえか」

「え？ そう？」

俺はまだアタマがうつろでぼんやりと答えた。

「何ショック受けてるんだよ。けっこう一ノ瀬について行ってたじゃないの。すごいじゃん」

ついていった？ あれで？ 俺はもう少し……。

「5秒9だによ。5秒台だぜ！ スポーツテストじゃ、めったに聞かないぜ。正確な計測じゃないかも
しれないけど、練習もしてねえ奴がさ。人生やんなるぜ。まったくよ」

根岸がぶつぶつと言っている。連のタイム？

俺は連を探した。

五、六人に囲まれている。運動部の奴ら？

俺は強引に割り込んで、

「おい、連」

声をかけて体操着の胸元をひつつかんだ。

「おまえ、陸部、入れ」

服が破れそうなくらい指に力をこめた。

「絶対、入れ」

何するんだよ、と言ったのは連じゃなくて、まわりの連中だった。

連の目は最初驚きの色を浮かべただけで、落ちついて俺を見返していた。

「走れよ」

俺は言った。

「嘘だろ？ 走んなきゃ」

すると、連の目が笑った。

「短けえな、50mは」

ポツツと言った。

俺は連の体操着を離した。

「もうちょい走れたかったな」

急に力が抜けた。ため息が出そうになった。

「一ノ瀬」

いつのまにか根岸が隣にいて、泣きそうな声で連を呼んだ。

「100あると、もうちょい面白かったよな」

連は根岸に話しかけた。

「新二はパワーあるから、後半伸びるタイプなんじゃない？」

根岸はうなずいた。

「神谷には俺も驚いた」

「新二も走る？」

連は俺に尋ねた。

⑧あまりに何気なく聞かれて、一瞬意味がわからなかった。次の瞬間、何か強烈な熱い風を胸に吹き込まれた気がした。

「おう」

運命のようなものを感じたにしては間の抜けた返事になった。

放課後、連と一緒に陸上部の見学に行つて、そのまま入部を決めた。

(「一瞬の風になれ」佐藤多佳子)

問一 線①「三組の俺は四組の連と一緒にだった。」とありますが、「俺」「連」の氏名をそれぞれ漢字で答えなさい。

問二 線②「わくわくした」とありますが、それはどうしてですか。その理由として最もふさわしいものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 速く走ることのできる連と勝負できるので

イ 小学校五年生の時以来の勝負で勝つ自信があったので

ウ 全国7位のスピードとはどんなものか知ることができたので

エ 自分がどのくらいで走ることができるのか能力を知りたかったので

問三 線③「思いきり走れよ」とありますが、これと同じ意味となる一文を本文中から抜き出して答えなさい。

問四 () ④に入る言葉を本文中から抜き出して答えなさい。

問五 線⑤「笑ったり茶化したりはしなかった」とありますが、それはなぜですか。「くから」につながるように本文中のことばを使って、二十五字以内で答えなさい。

問六 線⑥「視線の端に映った連の構えがカッコイイと思った」とありますが、この時の「俺」の様子を説明したものとして最もふさわしいものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 連に勝ちたいという思いが強くなり、何とか連のフォームをまねしようとしている様子

イ 自分の全力を出せるように集中力を高めながらも、連のことが気になって仕方がない様子

ウ スターティング・ラインに立つ連の姿に見とれ、自分のフォームを忘れてあわてている様子

エ 全力で走るのは久しぶりであったし、連の構えの美しさからも「負け」を確信している様子

問七 線⑦「失敬な野郎だ」とありますが、これと同じ意味となる言葉を本文中から十字で抜き出して答えなさい。

問八 線⑧「あまりに何気なく聞かれて、一瞬意味がわからなかった」とありますが、それはどのような「意味」だったのですか。本文中の言葉を使って二十字以内で答えなさい。

四 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(特に指示がない場合、句読点や記号は一字に数えます)

先日、ある人が勉強のできない人に対して、①「精薄」ということばを使いました。ただ勉強ができないことで、「精薄」ということばを使ったその人の心には、②ほんとうに、このことばの意味が理解されていたのでしょうか。わたしは、たいへん疑問に思いました。なぜなら、「精薄」ということばは、精神薄弱という病名の略語であるのに、その人は人をけなすことばとして用いたのです。これは障害者を異質なものとし、同じ人間として見ない現代社会のひとつの象徴ともいえるのではないのでしょうか。

さて、障害者をあらわすことばは、いつも③同情と偏見にそまり、いつしか障害者と健常者の間には、大きな壁をつくってしまったています。たとえば、普通高校の論文集や他の文集などを見ると、障害者はかわいそうな人、めづまれない人、陽のあたらない人というように書かれています。

なぜ健常者は、このような見方しないのでしょうか。それは、障害者をじぶんよりも下等な者として見ているからではないのでしょうか。そのため、障害者は、いつも束縛され、社会の片隅で生活しているのです。

そして、国や県の福祉政策は、施設にたよりすぎています。施設がたくさん完成したとしても、そこに入所できるのは、障害の軽度な人だけであって、ほんとうに福祉政策を待ちのぞんでいる重度障害者は、どこにも入所できず、ただ小さな窓の下に一日一日をすごしながら、希望をすこしずつうしなっていくのです。

こんな人たちを見て見ぬふりをする、これが、一見、進歩発展を見せたといわれる障害者福祉の実態なのです。そして、現代社会は、④障害者を同じ人間として見ることもせず、お金の力だけで福祉政策を進め、現在は破綻をきたしています。いまは障害者が健常者よりもすくないため、社会の構造は、ほとんど健常者が使いやすい社会がつくられています。もし、障害者の多い社会だったらどうでしょうか。逆に障害者の使いやすい社会がつくられているでしょうか。

つまり、社会自体、⑤「」を無視し、うわべだけの発展をとげてきました。そこには、現代社会が個人の特性や個性などはまるで無視して、社会に貢献する人だけが価値ある人間と見られています。しかし、⑥それだけで人間の価値を判断できるのででしょうか。そこで、もう一度、人間の価値について考えていただきたいと思うのです。

人間の価値とはなんだろうかと考えてみると、それ自体とてもあいまいで、りっぱな人、優れた人というときに、なにを基準にしているのかは、それぞれの人の主観によってこととなります。人間の価値が、主観によるのなら、時代の流れにもなつて、かわっていくものだと考えられます。しかし、人間の価値の原点に立ったとき、それは、かわつてはならないものなのです。

人間は、それぞれ独自の能力をもち、そこには、障害者・健常者という区別はありません。人間の本来の価値とは、それぞれの人間が自分の人生において、自己の全能力と全体力を使い、生きていく

姿ではないのでしょうか。

いまこそ、障害者も同じ人間であることを、外見、形象によって人間の価値判断はけつしてできないことを、あらたに認識し、心の目、つまり正しい人間観によって、わたしたち障害者を理解していただきたい。

そうすることにより「精薄」ということばは、人をけなすことばではないということ、福祉政策とは、⑦「」の力だけではできないということがわかっていただけたと思います。

これは、心の福祉政策の第一歩でもあり、わたしたちがこれからつくりあげていかなければならないのです。

心の福祉政策を明日からではなく、⑧今日からはじめようではありませんか。

(『車イスからこんにちは』嶋田泰子)

問一 線①「『精薄』ということば」とありますが、このことばの使われ方を筆者はどのようなものとしてとらえていますか。本文中から三十三字で抜き出して答えなさい。

問二 線②「ほんとうに、このことばの意味が理解されていたのでしょうか」とありますが、本筋にこのことばの意味を理解するには、何が必要だと筆者は考えていますか。本文中から三字で抜き出して答えなさい。

問三 線③「同情と偏見にそまり」とありますが、このことにより障害者はどのように暮らしていますか。本文中から二十字で抜き出して答えなさい。

問四 線④「障害者を同じ人間として見ることもせず」とありますが、どのような人と見ているのですか。本文中から十字で抜き出して答えなさい。

問五 ⑤「」にあてはまる言葉として最もふさわしいものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 社会に貢献できない人々

イ 重度の障害者

ウ 人数のすくない集団

エ 障害の軽度な人達

問六 線⑥「それだけで人間の価値を判断できるのででしょうか」とありますが、人間の価値とはどのようなものだと筆者は考えていますか。本文中から四十文字以内で抜き出して答えなさい。

問七 ⑦「」にあてはまる言葉を本文中から抜き出して答えなさい。

問八 線⑧「今日からはじめようではありませんか」とありますが、ここには筆者のどのような思いがあると考えられますか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び記号で答えなさい。

ア 障害者をふくめ多くの人間の、偏見にそまることのない人権を早く確立したいという思い。

イ 福祉政策に使われる予算が破綻をきたさないように、新しい認識を早く広めたいという思い。

ウ 障害者のこれからのために、社会に貢献できる価値ある人間を多く送り出したいという思い。

エ 障害者への理解を深め、正しい人間観をいち早く多くの人にもってもらいたいという思い。